

## インタレストグループ A

### 【模擬データを使って地域の健康づくりを立案しよう】

<企画責任者> 廣瀬 英生（県北西部地域医療センター国保白鳥病院）  
座 長 廣瀬 英生（県北西部地域医療センター国保白鳥病院）  
司 会 伊左次 悟（県北西部地域医療センター国保白鳥病院）  
演 者 後藤 忠雄（県北西部地域医療センター国保白鳥病院）

#### <企画概要>

地域医療の魅力は、健康な人も病気の人も、医療機関にかかっている人も医療機関にかかっていない人も含めて community 全体を対象にして、健康づくりに関わることができることである。今回は、仮想の地域である人口 1000 人の A 地域が舞台である。あなたはその地域にあるただ一つの診療所の医師（もしくは保健師である）。今あなたの目の前には、1000 人を 10 年追跡した地域のデータ（年齢、性別、一般健診データ、死亡状況、心血管イベントの発症状況）が分かっている。これらのデータを使って、この地域に対して自分はどのような健康づくりをすればよいか？ まずは、簡単なエクセルを利用した記述疫学を使って地域で起こっていることについて把握する。その次に、死亡、疾病データを用いてそのリスクファクターについて統計ソフトを用いて分析する。その結果を基に自分たちがどういった健康政策を立案していけばよいかを討論していただく。最後に実践例として、郡上市和良町で行っている健康福祉総合計画「まめなかな和良 21 プラン」の紹介を行う予定である。

## インタレストグループB

### 【『家族』のチカラを語ろう！～いろいろな立場・家族のみかた～】

<企画責任者> 居安 綾子（奈義町立奈義小学校 養護助教諭）

共同演者 池知麻有加 （無所属）

共同演者 田中亜紀子 （トータルファミリーケア北西医院）

共同演者 渡部あずさ （北海道家庭医療学センター

本輪西ファミリークリニック）

共同演者 眞榮 和紘 （ソフィアメディ株式会社）

共同演者 嶋田 文子 （社会医療法人 健生会 大福診療所）

共同演者 中平 絵里 （宇都宮協立診療所）

共同演者 武貞恵美子 （musubi のクリニック）

#### <企画概要>

2020年代に入り、時代や社会の変化に伴い『家族』の在り方は少しずつ変化しています。そこに新型コロナウイルス感染症の流行が加わり、その変化はより急で明確なものになりました。思いもよらない形で現れた家族形態、役割、価値観などの変化。そんな今だからこそ、得られる気づき、改めて考えられる事があるのではないのでしょうか。2022年の学会のテーマ『今、プライマリ・ケアの真の価値を考える～様々な立場・環境をつないで～』ということで、今回はいろいろな立場での『家族』の捉え方や視点、アプローチの仕方など、多職種のゲストを迎え、対談形式でお話していただきたいと思います。そのお話をもとに参加者の方々と共に『家族』を深めてみたいと思います。プライマリ・ケアの柱のひとつでもある家族志向のケア。

『家族』にフォーカスしてみませんか。職種問わず、多くの方のご参加お待ちしております。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会  
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association  
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜

## インタレストグループC

### 【これからのプライマリ・ケア×まちづくり決起集会！】

<企画責任者> 徳田 嘉仁（滋賀家庭医療学センター）

座 長 徳田 嘉仁 （双樹会守上クリニックよしき往診クリニック  
滋賀家庭医療学センター）

座 長 近藤 敬太 （藤田医科大学 総合診療プログラム／  
豊田地域医療センター 総合診療科）

司 会 瀬田 宏哉 （ロコクリニック中目黒）

演 者 清水 洋介 （南砺家庭・地域医療センター）

演 者 漆畑 宗介 （JA 秋田厚生連 湖東厚生病院）

演 者 駒田 雄一 （駒田医院）

演 者 内山 直樹 （内山クリニック）

演 者 新野 保路 （福井大学医学部附属病院診療部/  
南越前町国民健康保険今庄診療所）

演 者 岩浪 悟 （東京都立多摩総合医療センター救急・総合診療部）

演 者 守本 陽一 （公立豊岡病院出石医療センター総合診療科）

### <企画概要>

社会的処方やコミュニティナースといったワードに代表されるように、社会とのつながり自体を創出していく動きが医療者の中でも盛んになってきた最中にコロナ禍が到来しました。現在、我々は「人が集まりにくい状況下で、人が集まる場をつくる」という相反する環境の体現に想いを馳せています。しかし、そんな今だからこそ、感染対策の知識や地域診断、社会が健康に与える影響といった因子を統合的に分析できるプライマリ・ケアの専門家にしか行えない場づくりがあるはずです。

本インタレストグループの目的は以下の2つです。①with コロナにおけるプライマリ・ケア×まちづくりの課題抽出と、実践内容の共有。②after コロナにむけて、プライマリ・ケア×まちづくりに携わる人々が学会終了後も継続的な情報交換を行えるプラットフォームの構築。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会  
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association  
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜

本学術大会は、2年越しでついに実現する現地開催となります。この再開の場だからこそ、「これまでの」そして「これからの」プライマリ・ケア×まちづくりについて語り合う場を提供します。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会  
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association  
2022年6月11日(土) ~12日(日) | パシフィコ横浜

## インタレストグループD

### 【多職種で取り組むフレイル症候群】

<企画責任者> 廣瀬 英生（県北西部地域医療センター国保白鳥病院）

座 長 廣瀬 英生（県北西部地域医療センター国保白鳥病院）

司 会 伊左次 悟（県北西部地域医療センター国保白鳥病院）

演 者 後藤 忠雄（県北西部地域医療センター国保白鳥病院）

演 者 藤川 耕（県北西部地域医療センター国保白鳥病院）

演 者 大西 権亮（県北西部地域医療センター国保白川村診療所）

### <企画概要>

フレイル症候群は、加齢とともに心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能が障害され、心身の脆弱性が出現した状態である。我々の行ったコホート研究でも総死亡へのリスクがあることが証明された。一方現在コロナ禍の下高齢者どうしの集まり、運動の機会が減少し、ますますの同症候群の増加が予想される。このセッションではフレイル症候群を定期受診外来でいかに拾い上げ、具体的にアプローチをするか討議し、実際に当院で行っている多職種でどのような手法を用いているかを紹介する

## インタレストグループ E

### 【産業医としての第一歩を踏み出そう】

～産業保健の視点を日常診療にいかすために～】

<企画責任者> 安藤 明美 (安藤労働衛生コンサルタント事務所 代表/

家庭医専門医・指導医)

司会 安藤 明美 (安藤労働衛生コンサルタント事務所 代表/

家庭医専門医・指導医)

演者 今井 鉄平 (OHサポート株式会社 代表/産業医)

演者 田中千恵美 (アクトグレースサポート株式会社 代表取締役/保健師)

演者 富田さつき (医療法人社団 富田医院 理事長/医師)

### <企画概要>

日本医師会の推計では、日本医師会認定産業医制度の認定者数のうち実動産業医数は約3万人とも言われています。一方、総務省の集計では、2020年平均の就業者数は6676万人と言われており、実動産業医約3万人は、全ての就業者の健康を支えるために十分とは言えない状況です。プライマリ・ケア医は、こうした社会のニーズに応え得る存在だと思われます。一般に、プライマリ・ケア医はコミュニケーション力も優れており、産業保健師など産業保健に関連するスタッフの方々とチームを形成し、課題に取り組むことも可能です。「産業保健に関するワーキンググループ」は、既存の産業保健を尊重しながら、プライマリ・ケア医が得意とする能力を活かし、産業医・産業保健活動を実行するためのスキルアップや情報のアップデートを目的とした情報発信、生涯学習の場を提供していくべく、活動しています。今回のセッションは、産業保健の現場経験の長い産業医・保健師・家庭医が、それぞれの視点から現状と課題を伝え、その後の討論を通じて参加者の産業保健活動のみならず、日常診療にも役立つような場としたいと思います。どうぞお気軽にご参加いただければと思います。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会  
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association  
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜

## インタレストグループF

### 【病院長塾～地域医療の志士たちよ、未だ定説なし～】

<企画責任者> 江角 悠太 (志摩市民病院)

司 会 合谷 貴史 (NPO 法人病院経営支援機構)

演 者 江角 悠太 (志摩市民病院)

演 者 四方 哲 (京都府山城広域振興局健康福祉部長)

演 者 稲田 啓介 (球磨郡公立多良木病院)

演 者 日下 伸明 (亀田総合病院)

演 者 伊関 友伸 (城西大学経営学部)

演 者 白石 吉彦 (島根大学医学部附属病院総合診療医センター)

演 者 中西 貴大

#### <企画概要>

へき地の中小規模病院の院長職に興味がある若手総合診療医に贈る。へき地の小規模病院の院長職は、まさに総合診療医がいままで学んできた能力を活かせる格好の場所。MRI もない、手術も大した症例数がない、もしくはしていない。周囲は田んぼや畑、山や海。高度専門病院までは車や船で30分以上。そんな病院にこぞって行きたがる物好きな専門医。地域住民からばかりか、県や行政からも求められ、大学からも求められている。総合診療医だからこそ、生きるフィールド、その病院長たるや、その地域住民の幸福度を左右する、最も重要な因子の一つであろう。病院長経験者、病院長、副病院長、将来の病院長候補生、日本のへき地病院経営のスペシャリストをメンバーが自分たちの経験談を元に、参加者とともにへき地小規模病院経営の真髓を深めて行く、全方向性の討論会。全国の実例を踏まえながら、病院経営に興味をより興味を持っていただけると幸いです。

## インタレストグループG

### 【家庭医としての「あたりまえ」を見直す～「自分」というものを観察する～】

<企画責任者> 井上 和興（大山診療所/鳥取大学医学部地域医療学講座）

全体統括・ファシリテーター 井上 和興（大山診療所/

鳥取大学医学部地域医療学講座）

ファシリテーター 大塚 裕真（鳥取県立中央病院）  
ファシリテーター 小原 亘顕（鳥取市立病院）  
ファシリテーター 懸樋 英一（鳥取市立病院）  
ファシリテーター 櫻井 重久（鳥取市立病院）  
ファシリテーター 竹安つばさ（国民健康保険智頭病院）  
ファシリテーター 谷口 尚平（日南町国民健康保険日南病院）  
ファシリテーター 中井 翼（日野病院組合日野病院）  
ファシリテーター 李 瑛（鳥取大学医学部地域医療学講座）

#### <企画概要>

家庭医として「あたりまえ」だと行動する中で、他者と衝突したことはありませんか？ 本企画は、家庭医としてのあり方が身につく過程にある（身につけている）参加者自身の「あたりまえ」を他者との対話のなかで言語化することが目的です。家庭医療を学ぶなかで徐々に家庭医が自分自身の「あたりまえ」になります。ただ、この「あたりまえ」が確立されていくことで、家庭医療の分野のことが俯瞰してみえなくなり、他者との衝突が生まれ、衝突の背景に気付くことも難しくなることがあります。本企画では、参加者がこのテーマについて対話することで、見慣れたものを新しい視点でみて課題にあたる視点、未知のモノから着想を得て自分の課題にあたる視点を身につけるきっかけを言語化します。新しい視点で見直すことで、とらわれている（かもしれない）現在の自分自身を学びほぐしましょう。



## インタレストグループH

### 【オンライン・メンタリングの可能性】

<企画責任者> 徳田 嘉仁（滋賀家庭医療学センター）

座 長 櫻井 広子（医局につぼん、済生会岩泉病院、  
みちのく総合診療医学センター）

演 者 徳田 嘉仁（双樹会守上クリニックよしき往診クリニック  
滋賀家庭医療学センター）

演 者 深瀬 龍（大蔵村診療所）

演 者 大塚 亮平（手稲家庭医療クリニック）

演 者 山城 啓太（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 総合内科）

### <企画概要>

自己省察は総合診療医の成長に重要であり、メンタリングによる継続的・包括的な振り返りが省察や成長を促すことが期待される。しかし、十分な時間と心理的安全性を担保してメンタリングを継続することは難易度が高く、COVID-19 流行下においては特に同じ時間・場所に集まること自体も難易度が高くなってしまった。その中で感染対策と継続性の問題を解決しうる方法がオンラインメンタリングである。オンラインメンタリングは空間や距離の問題を解決する事が可能であり、更に言えばプログラムすら飛び越え指導しあう環境を創出できる可能性がある。一方、オンラインならではの障壁が存在することも事実であり、対面でのメンタリングをそのままオンラインへと置き換えられるものでもない。このインタレスト・グループではオンライン・メンタリングを実践/受講してきた方とともに、オンラインでメンタリングを実施していく上でのメリット・デメリット、上述のプログラム外からの指導の可能性などについてディスカッションし、オンラインメンタリングという手法の課題や問題点、今後の可能性について抽出する。

## インタレストグループ I

### 【深みを持たせる総合診療 ～やっちゃえ！ Genespelist～】

- <企画責任者> 鈴木 聡 (市立旭川病院総合内科)
- 演 者 赤井 靖宏 (奈良県立医科大学 地域医療学)
- 演 者 八田 告 (八田内科医院)
- 演 者 東 光久 (奈良県総合医療センター)
- 演 者 鈴木 聡 (福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー)
- 演 者 原 将之 (済生会京都府病院 腎臓内科)
- 演 者 西山 大地 (市立福知山市民病院 血液内科)

#### <企画概要>

多疾患併存の時代においては領域別専門医 (specialist) も総合診療医 (generalist) も協力しあい、お互いの垣根を超えた診療を心がけることで、自らのスキルアップと協力体制の強化、診療の質の向上に繋がり、広さと深さを兼ね備えた医療提供が期待できます。そのような診療のできる医師像を我々は” genespelist” と命名し、その啓発に努めてきました。今回からは概念論にとどまらず、cutting edge な 6 名の genespelist が実践編をお届けします。

症例提示 (奇を衒ったものではなく genespelist が診た本格派症例) 基礎知識+genespelist にとって up-to-date な情報も盛り込んだレクチャー ガイドラインだけでは対応困難な臨床疑問に対する、実地診療における genespelist のアートを共有 Generalist も specialist も関係なく、どこまでも貪欲であくなき挑戦を続ける医師にぜひおすすめしたいコンテンツです。新たな領域の専門知識・スキルを身につけ、明日から勇気を持って一歩踏み出すことができるようなセッションを開催します。

## インタレストグループJ

### 【継承にまつわるエトセトラ～家庭医・総合診療医として家業を継承する】

<企画責任者> 高木 博 (みぞのくちファミリークリニック)

司会・演者 高木 博 (みぞのくちファミリークリニック)

演 者 大塚 貴博 (大塚医院ファミリークリニック)

演 者 小曾根早知子 (筑波大学医学医療系)

演 者 菅ヶ谷 純一 (菅ヶ谷内科医院)

演 者 小森 聡子 (高橋医院)

演 者 倉田 房子 (北茨城家庭医療センター)

演 者 広川 健信 (神栖済生会病院)

演 者 前野 哲博 (筑波大学医学医療系)

#### <企画概要>

目的：家業継承を考えている若手医師を対象に、キャリア形成について理解を深める。概要：新専門医制度が始まり、実家が開業医であることを理由に家庭医・総合診療医を目指す若い医師が増えてきています。ただ、いざ継承を考えた時に、「親とうまくやっていけないのではないか?」「いつ実家に戻るのがいいのか?」「準備はどのようにすすめたらいいか?」など、葛藤や悩みはそれぞれです。本企画は、将来家業継承を考えている医学生、初期研修医、専攻医や若手医師を対象にしております。前半では、総合診療における家業継承に関する研究やビジネス界での家業継承について解説し、家業継承を取り巻く状況について理解を深めます。後半の座談会では、家業継承を考えている専攻医や若手医師を中心に、実際に家業継承を経験した医師とフリーディスカッションをおこないます。また研修プログラム責任者の立場から前野哲博先生にもコメントをいただき、家業継承に関するキャリア形成のヒントを得ることができます。

## インタレストグループK

### 【ダブルボード制度の生み出す未来を夢想する！！】

＜企画責任者＞	賀來 敦	（社会医療法人清風会岡山家庭医療センター）
座 長	賀來 敦	（社会医療法人清風会岡山家庭医療センター）
共同講師	官澤 洋平	（明石医療センター総合内科）
共同講師	藤川萌恵美	（兵庫県立丹波医療センター）
共同講師	本郷 舞依	（みちのく総合診療医学センター）
共同講師	茂木 千明	（三恵外科医院 総合診療科）

### ＜企画概要＞

【背景】2022年度からの内科専門医と総合診療専門医のダブルボード研修開始を日本専門医機構は認めた。また総合診療領域のサブスペシャリティとして、日本プライマリ・ケア連合学会 新家庭医療専門研修が2020年度より、日本病院総合診療医学会 病院 総合診療専門研修が2022年度より開始となる。これら4つの専門研修では一部内容の重複があり、研修期間/施設を相互乗り入れによる、研修期間短縮取得の特例が認められている。一方、良質な研修環境構築/指導の質の担保と、期間短縮との両立などは、今後の課題の一つである。

【目的】 ・内科・総合診療・病院総合・新家庭医療の重複プログラムを指導/受講しうる立場からの現状の課題共有 ・デュアル～クアドラ指導医の課題と展望

【情報提供】 ・ダブルボード/新家庭医療専門研修の誕生に至る歴史をひも解く～失われた70年 ・4種のプログラムスケジュールの共通点/差異、期間短縮特例の概説 ・4つの指導医資格の取得条件

【座談会】 良質の研修環境を作り、質の高い指導をし、総合診療系研修を良い方向に向かわせる方 略を考える

## インタレストグループL

### 【誤嚥をご遠慮いただくために】

＜企画責任者＞	藤川 耕	(県北西部地域医療センター国保白鳥病院)
司 会	藤川 耕	(県北西部地域医療センター国保白鳥病院)
演 者	河合 伸哉	(県北西部地域医療センター国保白鳥病院)
演 者	臼田絵里菜	(県北西部地域医療センター国保白鳥病院)
ファシリテーター	後藤 忠雄	(県北西部地域医療センター国保白鳥病院)
ファシリテーター	廣瀬 英生	(県北西部地域医療センター国保白鳥病院)
ファシリテーター	伊左次 悟	(県北西部地域医療センター国保白鳥病院)
ファシリテーター	松久 雄紀	(県北西部地域医療センター国保白鳥病院)
ファシリテーター	黒川 大祐	(県北西部地域医療センター国保白鳥病院)

### ＜企画概要＞

地域において高齢者医療との関わりは避けることのできないものである。その中でも、誤嚥性肺炎はどの地域においても有り触れた病態であり、入院、施設問わず問題になっていることと思われる。当院周辺地域でも誤嚥性肺炎の再発予防は御しがたい課題ではあるが、当院のNSTを中心として院内スタッフ、また施設介護者に向け勉強会を開催しているが、多職種でワークショップを行うことにより新たな気づきが生まれることもある。今回は、学会の活動を通して意見を共有し、当院での活動を確認していただき、参加者とともにさらなる高みへと活動を昇華できればと考えております。内容としては嚥下の基礎から始まり、当院での嚥下スクリーニングフローの紹介、摂食介助時の注意点の確認などをワークショップを行いながら確認、共有し議論できればと考えております。

## インタレストグループM

### 【「プライマリ・ケアにおける国際分類の活用

### 文献に学ぶ ICPC 活用の実際と今後の可能性～」】

<企画責任者> 大野 每子（唐津市民病院きたはた／唐津市総合診療教育センター）  
司 会 大野 每子 （唐津市民病院きたはた／唐津市総合診療教育センター）  
演 者 高柳 宏史 （熊本大学病院 地域医療支援センター）  
演 者 大倉 佳宏 （徳島大学病院総合診療部）  
演 者 金子 惇

（横浜市立大学医学群データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻  
プライマリ・ケアリサーチユニット・浜松医科大学地域家庭医療学講座）

### <企画概要>

【企画意図】プライマリ・ケア国際分類第2版（International Classification of Primary Care 2nd ed.）はプライマリ・ケアにおける愁訴から治療、予防まで診療全体をコード化し、また初診から再診を一連のエピソードとしてとらえることのできる唯一の分類です。また、2021年にはICPC-3も公開されました。臨床や研究にどのように活かせるのか、海外論文を含め一緒に学び、深めませんか？

#### 【概要】

1. 基本的な ICPC についての説明
2. 海外論文から深める ICPC の活用法  
臨床疫学、臨床研究、教育など分野別に論文紹介・共有
3. パネルディスカッション：「ICPC の可能性」 委員会メンバー他
4. ICPC-2 ことはじめ 勉強会紹介、ICPC-2e-v7.0 日本語版入手方法、ICPC-3 についてなど



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会  
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association  
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜